

7月4日 小笠原諸島返還40周年記念式典

小笠原諸島返還40周年記念式典に行ってきました。朝、入間飛行場を出発した自衛隊機は硫黄島まで行き、そこからまた自衛隊のヘリコプターで父島に午前中に到着しました。

通常、父島へ行くためには竹芝桟橋から「おがさわら丸」に乗船し、25時間半の航海をしなければなりません。途中乗り継ぎがあったとはいえ、短時間で小笠原にいける航空機の速さを実感しました。

父島に到着するなり、島民の皆さんの熱烈な歓迎を受け、手作りのレイを首に掛けてもらいました。とても素敵なレイで気に入ったので、父島にいる間はほとんど身につけて歩いていました。

午後から、島民による楽しいパレードを見せていただき、その後式典。式典でのあいさつで、硫黄島の問題について触れました。返還40周年を心から言祝ぎたい。しかし、硫黄島はいまだ、硫黄島民の手に帰っていない。生まれ育った土地、家族との思い出の土地、先祖の墓がある硫黄島で暮らすことが許されていない。さらに、さきの戦争で玉砕の島となった硫黄島は日米双方に多大な戦死者を出した。米国は戦死者およそ7千人、そのすべての遺体の収容を戦後早期に完了した。しかし、日本側戦死者2万人の遺骨収集は遅々として進んでいない。戦後63年を経過して未だ半数以上が故郷に帰ることなく硫黄島の野辺に眠っているのである。戦後処理がいまだ終わっていない現実が小笠原に存在することも松原仁は指摘せずにはいられませんでした。

式典後は、祝賀会。島の料理や島のラム酒の歓待を受け、多くの人たちと語らいのひと時を持つました。

最後は、「小笠原民主党サポーターの会」の皆さん、40周年に合わせて来島した「都議会民主党島嶼振興調査会」視察団の皆さんとの合同懇親会、滅多にしないカラオケのデュエットも披露しました。

小笠原にも政権交代の機運が高まってきていることを実感しつつ夜は更けていきました。

翌日は朝から島内視察。空港建設構想地や、自然塩工場、農業センターなどを視察し、おひるには父島をヘリコプターで発ち硫黄島へと向かいました。

硫黄島訪問 [http://www.jin-m.com/kiroku/this\\_year/kiroku2008\\_0705.html](http://www.jin-m.com/kiroku/this_year/kiroku2008_0705.html)